

自治大卒業生の声

自治大学校卒業生（第1部課程第143期）

千葉県監査委員事務局調整課 大島 瞳

編集者注：本稿は、自治大学校における研修の特長などについて、自治大学校の卒業生が記したものです。

1 はじめに

私は、令和6年10月22日から令和7年3月7日までの約4ヶ月間、第1部課程第143期生として自治大学校で過ごしました。入校を検討・予定されている皆様の参考にしていただけたらと思い、在学時を振り返りながら、執筆させていただきます。

私が自治大学校への派遣について話を受けたのは、研修参加の前年度のことでした。内容をあらためて確認すると、幹部候補生養成研修とのこと…。そんな研修に自分についていけるのか、不安が頭をよぎりましたが、全国の自治体から派遣されて来る皆さんと出会えることや、新たな学びを得られることへの期待が不安を上回り、思い切って参加をさせていただくことにしました。

2 入校まで

入校までの1ヶ月ほどは、業務の傍ら事前課題に追われていました。

eラーニングに、演習用の提出物。自治体の抱える課題や所属自治体の取組についてあれこれ調べながら課題に取り組むうち、気づけばあっという間に入校の季節に。

3 講義

研修前半は、法律の講義等がカリキュラムの中心となります。憲法・民法・行政法に加え、地方自治制度や地方公務員制度など。私自身、体系的に学習をする機会がなかった法律等について、集中的に学ぶ機会が得られ、ありがたかったです。

1コマ70分、毎日1限から5～6限まで、みっちりスケジュールが組まれていましたが、次第にそんな時間割にも慣れ、楽しく講義を受けることができました。

基本法制課目のほかにも、防災、観光、農業、福祉、それにA IやD Xなど、様々な分野について著名な先生方から講義を受ける機会があります。講義を通じ、最先端の話題に触れることもでき、贅沢な時間でした。

4 演習

研修後半は、グループ演習がカリキュラムの中心となります。このうち、特に思い出深かったものについて、いくつかご紹介させていただきます。

（1）事例演習（テキスト型・持寄型）

地域課題に関するケーススタディを通じ、課題解決の手法を学ぶ課目です。この講義では、まず少人数で事例を検討し、それを踏まえて集団で討議を行うというカリキュラムになっていたのですが、討議の場で他の研修生の意見を聞くことで、自分の思考を深めることができ、とても有意義な時間となりました。

（2）模擬講義

実際に壇上で模擬講義を行い、それに対し、講師や他の研修生からフィードバックを得ることで、プレゼンテーション能力向上を目指す課目です。私は人前で話することに苦手意識があったのですが、緊張しないことが重要なのではなく、自分の話を相手に届けることが大事なので、その点を意識すると良いとアドバイスを受け、それまで緊張という一点にとらわれていた私は、目から鱗が落ちる思いでした。今後にもつ

ながる大きな気づきとなりました。

(3) 政策立案

特定の自治体への提言を想定して政策を立案するという、自治大学校の演習の中でも核となる課目です。

当初はスムーズに進みそうに思われたのですが、内容の理解が深まるにつれ、逆に議論の終着点が見えづらくなるという事態が発生し、一から政策を作ることの大変さを感じました。手探りで話を進めていかなければならない部分もあり、そのことに不安を覚えることもありましたが、皆で話し合いながら、一つひとつ関門をくぐりぬけ、最終的に政策という形に仕上げることができたのは、大変幸せなことでした。政策立案のコマは約 70 時間ほどでしたが、皆がそれぞれのやり方でグループに貢献する姿を間近に見て、私自身、学ぶことが多くありました。この講義では、特に色々なことを勉強させていただいたな、と感じています。

5 研修中の生活

研修期間中は、寄宿舎に入寮しての生活となります。私が所属した第 143 期は 36 名（うち女性は 7 名）。2 フロアに分かれての寮生活でした。各フロアには談話室が設けられ、研修生の派遣元から送られてくる美味しいお酒やおつまみ・お菓子をいただきながら、日々、色々な話をしました。それぞれの派遣元についてであったり、これまでの業務についてであったり、話題は様々でしたが、会話を通じ、所属元である千葉県が外からどのように見られているのかなどを知ることができ、とても勉強になりました。

また、私は研修期間中に誕生日を迎えたのですが、当日は、ケーキで盛大に祝ってもらい、忘れられない一日となりました。

この他、休日には皆と色々な所に出かけ、屋形船ツアーに草津旅行など、どれも良い思い出になっています。

6 おわりに

この研修を通じ、私は、普段の業務の中だけではなかなか得られない知識を身に着けることができ、多くの経験をすることもできました。また、志を同じくする全国の仲間と知り合い、交流を深められ、このことが私にとって一番の財産となりました。彼らの仕事等への姿勢や人間関係の構築の仕方などは、私にとって参考になるものばかりで、振り返ってみると、研修期間は、オン・オフいずれの時も、学びの時間であったように思います。

自治大学校第 1 部課程の研修は、一定期間、地元・職場を離れての研修となるため、参加を悩まれる方もおられるかもしれませんが、この研修は、単に知識を得る所というだけでなく、素晴らしい仲間と出会い、切磋琢磨し、成長を得られる場でもありますので、もし参加の機会がありましたら、ぜひその機会を活かしていただければ幸いです。

最後に、自治大学校の講師・職員の皆様、このような機会を与えてくださった派遣元の千葉県庁の皆様、その他関係の皆様、心から感謝いたします。



寄宿舎から眺めていた富士山